

令和7年度病害虫発生予報第10号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生	程 度
		現 況	予 想
きゅうり	べと病	並	並
	うどんこ病	少	少
	褐斑病	やや少	やや少
	灰色かび病	並	並
	ミナミキイロアザミウマ	少	やや少
	コナジラミ類	やや少	並
トマト	黄化葉巻病	やや多	やや多
	灰色かび病	やや少	やや少
	コナジラミ類	やや少	並
いちご	うどんこ病	やや少	やや少
	灰色かび病	やや少	やや少
	アブラムシ類	やや多	やや多
	ハダニ類	やや少	並
	アザミウマ類	並	やや多
たまねぎ (早生)	べと病	並	並
	白色疫病	並	並
	ネギアザミウマ	少	やや少

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査（6筆）の結果、発病葉率は1.8%（1.9%）、発生圃場率は16.7%（24.1%）であった。

2. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査（6筆）の結果、発生を認めなかった（発病葉率3.0%、発生圃場率38.9%）。

3. 褐斑病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査（6筆）の結果、発生を認めなかった（発病葉率0.0%、発生圃場率2.1%）。

4. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

1 月前期の巡回調査（6 筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

5. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 1 月前期の巡回調査（6 筆）の結果、発生を認めなかった（寄生葉率 0.4 %、発生圃場率 16.2 %）。

イ 向こう 1 か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

6. コナジラミ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 1 月前期の巡回調査（6 筆）の結果、寄生葉率は 0.1 %（0.3 %）、発生圃場率は 33.3 %（16.2 %）であった。

イ 向こう 1 か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 密度が高くなると防除が困難になるので発生初期に防除する。

イ タバココナジラミは退緑黄化病の病原ウイルス（CCYV）を媒介するので、防除を徹底する。

ウ 退緑黄化病の発生はやや多い状態（1 月前期の巡回調査（6 筆）の結果、発病株率 19.3 %、発生圃場率 83.3 %）であり、次作に持ち込まないよう防除対策を徹底する。

エ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和 7 年長崎県病害虫防除基準 P 149～150 の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1 月前期の巡回調査（9 筆）の結果、発病株率は 0.6 %（0.2 %）、発生圃場率は 44.4 %（17.3 %）であった。一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

タバココナジラミの防除を徹底するとともに、発病株は二次伝染源となるので、見つけしだい直ちに抜き取り、ハウス外に持ち出し適正に処分する。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

1 月前期の巡回調査（9 筆）の結果、果実での発生を認めなかった（発生を認めない）。葉での発生も認めなかった（発病葉率 0.3 %、発生圃場率 10.1 %）。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 1 月前期の巡回調査（9 筆）の結果、寄生葉率は 1.3 %（2.3 %）、発生圃場率は 44.4 %（41.4 %）であった。

イ 向こう 1 か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

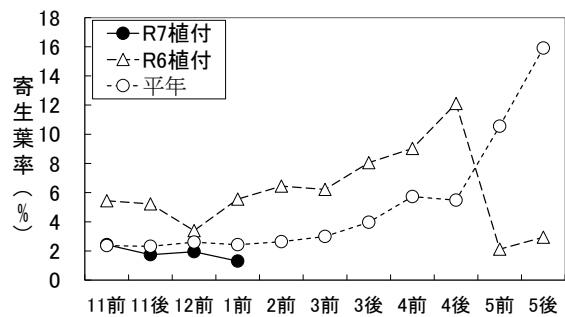


図 トマト コナジラミ類 寄生葉率

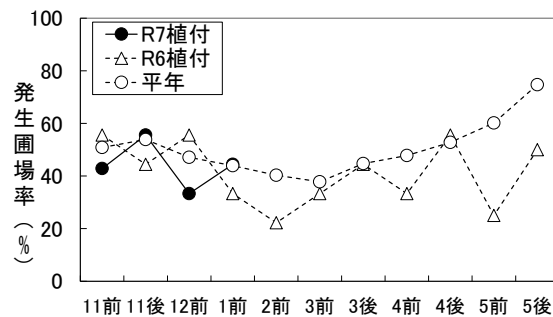


図 トマト コナジラミ類 発生圃場率

(3) 防除上注意すべき事項

- ア コナジラミ類は多発生すると防除が困難になるので、黄色粘着板を利用するなどして発生状況の把握に努め、発生初期の防除を徹底する。
- イ タバココナジラミは、黄化葉巻病ウイルス (TYLCV)、黄化病ウイルス (ToCV) を媒介するので防除対策を徹底する。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統 (令和7年長崎県病害虫防除基準P165～166の「作用機構による分類 (IRAC)」参照) の薬剤を連用しない。
- エ 施設内の雑草は本虫の発生源となるので除去する。

いちご

1. うどんこ病

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
1月前期の巡回調査 (26筆) の結果、葉での発生は認めなかった (発病株率 0.0%、発生圃場率 0.5%)。果実での発生も認めなかった (発病果率 0.0%、発生圃場率 0.5%)。

2. 灰色かび病

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
1月前期の巡回調査 (26筆) の結果、発病果率は 0.0% (0.1%)、発生圃場率は 11.5% (16.5%) であった。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 夜間は暖房機を断続的に稼働し、曇雨天日や気温が低い日もできるだけ換気を行いハウス内が多湿にならないような管理に努める。
 - イ 被害果等の発病部位は伝染源となるので早期に取り除き、ビニール袋等に密閉してハウス外に持ち出し処分する。
 - ウ 予防的な薬剤防除に努め、特に曇雨天が続くことが予想される場合は徹底する。
 - エ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統 (令和7年長崎県病害虫防除基準P179～181の「作用機構による分類 (FRAC)」参照) の薬剤を連用しない。

3. アブラムシ類

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
ア 1月前期の巡回調査 (26筆) の結果、寄生株率は 1.6% (1.6%)、発生圃場率は 34.6% (18.4%) であった。一部多発圃場が見られた。
- イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 花のがくに寄生しやすいので、発生を認めたら初期のうちに防除を行う。
 - イ 薬剤のかけむらがあると防除効果が低下するので葉裏まで十分に散布する。

4. ハダニ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 1月前期の巡回調査（26筆）の結果、寄生株率は4.6%（8.0%）、発生圃場率は57.7%（52.8%）であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

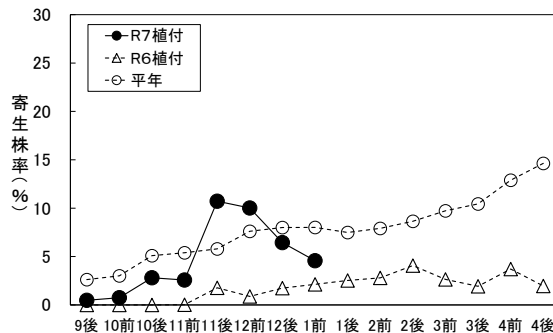


図 いちご ハダニ類 寄生株率

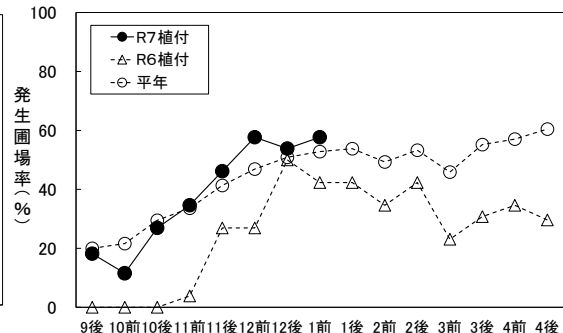


図 いちご ハダニ類 発生圃場率

(3) 防除上注意すべき事項

ア 早期発見、早期防除に努める。また、防除効果を高めるため薬剤散布前に古葉を除去し、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

イ 薬剤の選定にあたっては、使用時期などラベルをよく確認し、ミツバチや天敵のカブリダニ類等への影響を考慮する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和7年長崎県病害虫防除基準P182～183の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

エ 除去した茎葉は圃場内に放置せず、すみやかに処理し、圃場内の環境整備に努める。

5. アザミウマ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 1月前期の巡回調査（26筆）の結果、寄生花率は0.4%（0.4%）、発生圃場率は19.2%（15.6%）であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

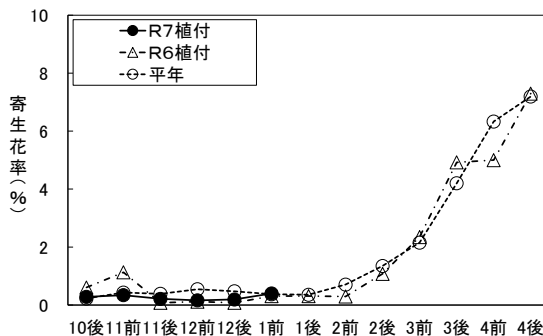


図 いちご アザミウマ類 寄生花率

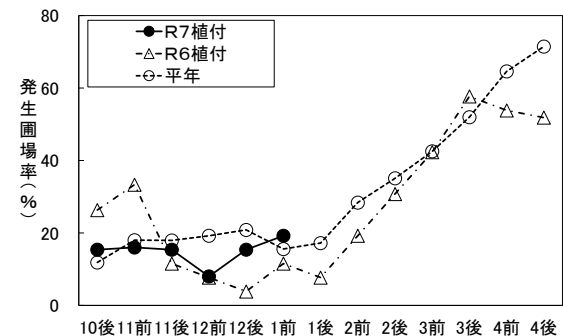


図 いちご アザミウマ類 発生圃場率

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生が多くなってからの防除は困難であるので、早期発見・早期防除に努める。

イ 本虫は薬剤が到達しにくい蕾や花、がく等に寄生しているため、丁寧に薬剤散布を行い薬液がかかるようにする。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤（令和7年長崎県病害虫防除基準P182～183の「作用機構による分類（IRAC）」参照）を連用しない。

エ ミツバチへの影響日数を確認してから薬剤選定、散布を行う。

1. ベと病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査（16筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.00%、発生圃場率0.9%）。

(3) 防除上注意すべき事項

圃場の見回りをこまめに行い、発病株（一次感染株）を発見したらできるだけ早く抜き取る。抜き取った株は圃場内に放置せず、胞子が周囲に飛散しないよう、その場で直ちに袋等に入れて圃場外に持ち出し、適切に処分する。

2. 白色疫病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月前期の巡回調査（16筆）の結果、発生を認めなかった（過去10か年平均 発病株率0.0%、発生圃場率0.7%）。

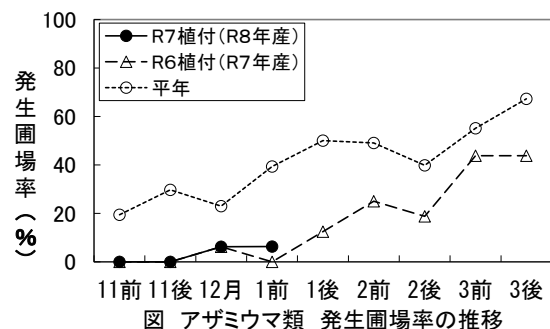
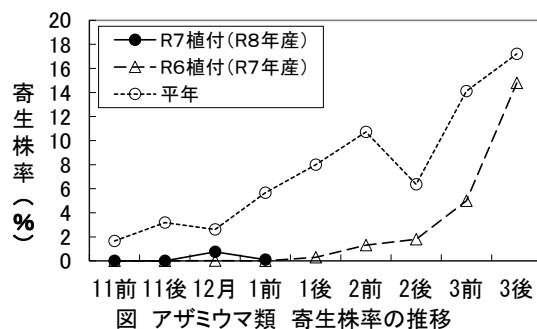
3. ネギアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 1月前期の巡回調査（16筆）の結果、寄生株率は0.7%（5.7%）、発生圃場率は6.3%（39.3%）であった。

イ 向こう1か月の気温は高く、降水量は少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。



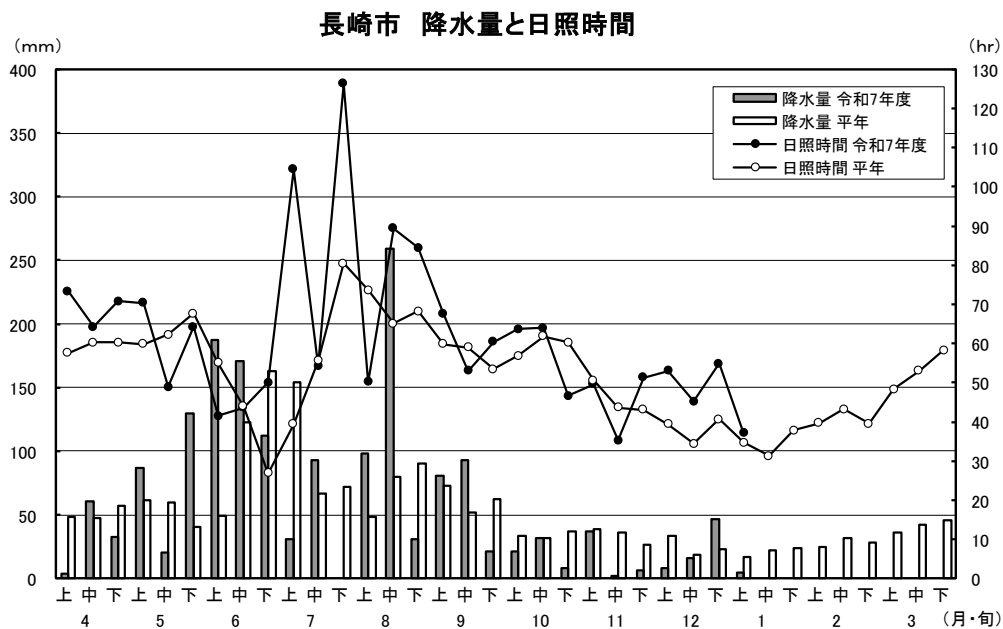
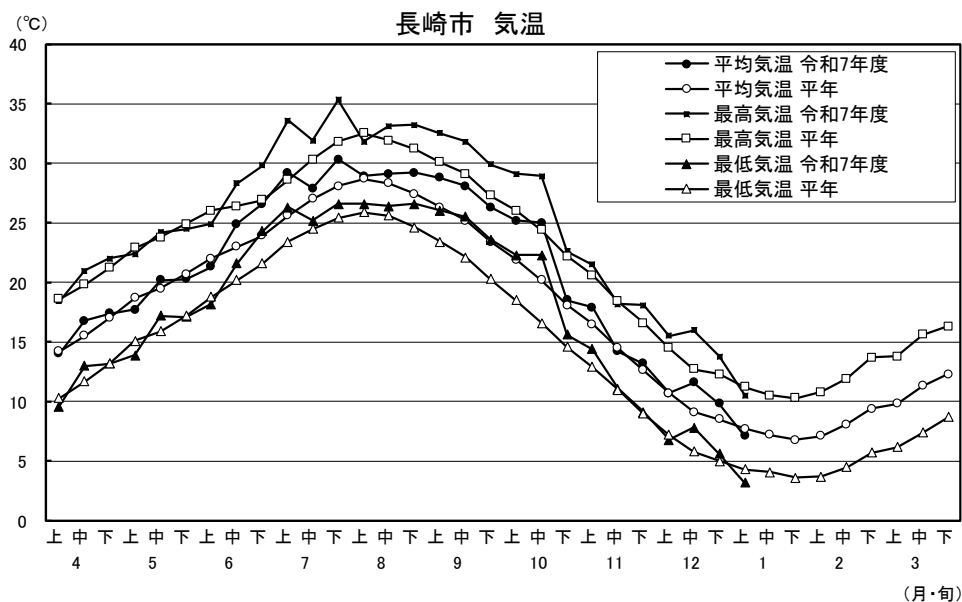
【参考】

(令和8年1月8日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	50	30	20
日照時間	20	40	40

※予報対象地域：九州北部地域

令和7年度の気象経過（長崎地方気象台）



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス

: <https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) TEL : 0957-26-0027

